城山小学校　第８５３回平和祈念式　　令和４年８月９日

第八五三回　平和祈念式

平和坂や永井坂では、今日もセミの鳴き声が響いています。

きっと、七十七年前の今頃も、同じように、青空が広がる暑い日だったのだろうと思います。

本日、城山小学校　第八五三回平和祈念式の挙行に際しましては、御多用な中に、城山小学校原爆殉難者慰霊会会長　本田魂様、長崎市教育委員会教育長　橋田慶信様並びに、参議院議員秋野公造）様を始め、多くの御来賓・保護者・地域の皆様の御参列を賜り、心から感謝申し上げます。また、育友会会長　松本光生様を始め、育友会役員の皆様の御支援に対しまして、深く感謝申し上げます。

今日の平和祈念式には、二年生の皆さんが、献花用の花を持ってきてくれました。二年生の皆さん、ありがとうございました。

本日の平和祈念式に臨むにあたり、私は、改めて原爆殉難者の碑の前に刻まれた碑文を読み返してみました。

そこには、次のような文が刻まれています。

昭和二十年八月九日、午前一一時二分、松山町上空に炸裂した原子爆弾は、城山国民学校を破壊し尽くし、うっそうとした森もなぎ倒した。

この時、学校にあった教師二十六名、庁務員三名、家庭にあった児童千四百名あまり、及び本校で服務中の三菱兵器製作所員、挺身隊員、学徒報国隊員合わせて百五名が、悲惨きわまりない爆死を遂げたことは痛恨のきわみである。

ことに、教師のほとんどが校庭にあったため、その多くが瞬時に、声もなく無残な姿と化し、在りし日の面影を確認することすらできず、遺体を収容することもできなかった。また、即死を免れた者も、この世のものとも思われぬ姿で苦痛にうめき、水を求めながら次々に息絶えていった。さらに、殉難した児童の一人一人についても、今日なおその姓名の確認さえできないのは、真に遺憾に堪えない。

あの日の地獄さながらの凄惨な光景は、いつまでも私たちの脳裡を離れず、悲しくも痛ましいこの歴史的事実は、時が移り、人が代わろうとも、永久に忘れ去られてはならない。

今後、戦乱が起こり、再び原水爆が使用されるとすれば、世界人類の滅亡は必至であろう。このことを思えば、真に恐怖と憂慮に堪えない。

自ら原爆を浴びた私たちは、かかる悲惨な出来事が再び繰り返されないよう念願し、平和と人類愛の道を求めてやまない。

ここに、碑を整備し、この地で原爆に殉じた児童、教師、庁務員、三菱兵器製作所員、挺身隊員、学徒報告隊員の冥福を祈るとともに、世界の恒久平和を祈念する。

昭和五十年八月九日
長崎市立城山小学校

これは、今から四十七年前に刻まれた碑文になります。

谷川(たにかわ)俊太郎(しゅんたろう)さんという方が書かれた、「せんそうしない」という本があります。この本は、

ちょうちょと　ちょうちょは　せんそうしない／きんぎょと　きんぎょも　せんそうしない／という文で始まります。

そして、後半には、

こどもと　こどもは　せんそうしない／けんかは　するけど　せんそうしない／せんそうするのは　おとなと　おとな／じぶんの　こどもを　まもる　ため／じぶんの　こどもを　まもる　ため／でも　せんそうすれば　ころされる／てきのこどもが　ころされる／みかたの　こどもも　ころされる／ひとが　ひとに　ころされる／しぬより　ころされる　と書かれています。

さて、世界の国に目を向けると、皆さんも知っているように、ロシアのウクライナ侵攻が始まって、間もなく半年が経とうとしています。どんな理由があっても、戦争は、「絶対にいけないこと」です。

核兵器の使用など、もってのほか、とんでもないことです。

原爆の被害を受けた方たちは、今でも体や心に傷を負い、七十七年という長きにわたって苦しんでおられます。

今の平和で豊かな長崎や日本は、先人の血のにじむような努力と皆さんのような子どもたちの未来を守ろうとする深い愛によって築かれてきたものです。

戦争があったこと、原爆で大きな被害を受けたことを、私たちは決して忘れてはいけません。

私たちの城山小学校では、原爆で亡くなられた方々の御冥福を祈り、二度と戦争はしない、核兵器は使わせません、平和な世界を私たちがつくりますという気持ちを、毎月九日の平和祈念式で確認しています。

祈念式は、戦争が終わって六年後の八月九日に始まり、今日が八五三回目ですから、祈念式を始めてからの七一年間、一度も欠かさずに積み重ねていることになります。

私は、本校に赴任して一年半ほどになります。この間、城山小では、人のいたみがわかり、やさしい子どもが育っていることを強く感じています。これは、長年にわたって続けてきた平和教育の賜だと思います。

皆さんには、今この時間や、このあとの時間で、皆さんの先輩になる方々の思いや願いを受け継ぎ、平和のために、自分には何ができるかを、改めて考えてもらいたいと思います。

原爆の悲惨さを継承し、平和の尊さを発信していくのは、城山小で学ぶ私たち一人一人の使命です。

「平和は城山から」を胸に、平和な未来を築くため、事実を知り、そして学び、考え、自分にできることを続けていくことを皆さんと一緒にここに誓って、私の話を終わります。

令和四年八月九日
長崎市立城山小学校　校長　　武末　弘之

8/10　長崎新聞

各学級で作った「願い」を風船に乗せる児童たち＝長崎市城山町

爆心地から約500㍍に位置し、1400人以上の児童や教職員が犠牲になった長崎市城山町の市立城山小（武末弘之校長、506人）では、平和祈念式が開かれた。

毎月9日に開き、853回目。体育館での式には6年生以下は各教室のテレビで視聴した。全校児童が作った折り鶴を供え、同校に歌い継がれる「子らのみ魂よ」を合唱。「平和は城山から」をテーマに各学級で作成した「願い」を読み上げた。6年2組代表の久里由長さん(11)は「届けよう、城山から世界へ、平和のプレゼント」と宣言した。

この後、各学級ごとに校内の慰霊碑や被爆者などの前で祈りをささげた。（山本真理）

8/9　万灯流し